平成 27 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名 ： ホームとよまね

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0393000013		
法人名	株式会社 メイト		
事業所名	ホームとよまね		
所在地	〒028-1302 岩手県下閉伊郡山田町豊間根第2地割64番地11		
自己評価作成日	平成 28 年 2 月 10 日	評価結果市町村受理日	平成28年5月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/03/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=0393000013-00&PrefCd=03&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020－0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号
訪問調査日	平成 28年 3月 23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

保育園やボランティアの定期的な訪問がある他、小、中学校の福祉体験学習の場としても活用されている。さらに今年度からは3か月に1度歌と踊りの慰問があり、ホーム前の掲示板にて近隣の住民の皆様に慰問の開催を周知する事でたくさんの皆様にご来所頂いており利用者の皆様と住民の方々がコミュニケーションを取れる機会が増えている。秋には元相撲経験のあるスタッフの仲間の方にボランティア慰問して頂きちゃんこ鍋とさんま焼きの会を開催しており、ご近所の皆様と交流を深めることができている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

3・11震災後、隣接の畑地に仮設住宅や人家が建てられ、今後の整備計画のなかで山田道路IC建設事業や復興事業により活気が増していく地域にある事業所である。理念に「地域福祉の一翼を担う」があり、近隣の保育園や小学校、ボランティアと親密な交流がなされているほか、仮設住宅の住民からは畑で野菜栽培をしたいとのお願いを受けるなど、近隣の人たちとの分け隔てないつきあいが実現されている。また3か月毎に来所する芸能一座の本格的な公演内容を多くの人に見てもらいたいとして、地域の方々と共に観劇し非常に喜ばれている。行政をはじめとして他機関との連携も、率直でスムーズなやり取りが継続され、協力関係を生み出している。開所9年目で当時の職員は2人以外新しくなり、今年度管理者が交代するなど運営面では一つの転機を迎えているが、これからのチームワーク作りにも意欲的であり、地域が培ってきた暮らしを分かち合う風土や、これまでの運営経験を継承しながら、今後新しくなっていく地域環境においても多くの自然な接点を生み出していくことが期待できる事業所である。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項 目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)		1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
		○	3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項 目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

平成　27　年度

2　自己評価および外部評価結果

事業所名　：　ホームとよまね

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所、施設内のホールの目につきやすい所に理念を掲示して共有に努め、職員会議の際に全職員で理念の唱和をし実践の意識を高めている。	利用者の「生きがい・安心・尊厳」について述べた理念で「地域福祉の一翼を担う」を含めている。小さな子供たちの訪問や近隣へのドライブなど、地域との関わりにおける利用者の生きがいを重んじながら実践に当たっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進委員の協力もあり保育園の行事や地域のイベントに参加させてもらっている。ホーム内でのイベントはできる限り掲示板にて周知し近隣住民の方々にホームを訪れて頂けるように努めている。	利用者が多様で豊かな体験が図られるよう地域の保育園・小学校・ボランティア団体・傾聴ボランティアと交流している。宮古の芸能一座が3ヶ月毎に来所しており、近隣の方々にも声をかけ一緒に観劇を楽しんでいる。	地域そのものの連帯感が強いことと、事業所も開設当初から地域との信頼関係が厚いことは大きな強みとなっている。今後も楽しみを地域と分かち合っていくオープンな関係性を継続していってほしい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホーム利用者と実際に接することで認知症に対する理解や支援方法を見て頂けるよう努めている。朗読・傾聴ボランティアの定期訪問、保育園児との交流や小中学校の福祉教育の場として活用されている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	様々な機関の代表者が推進委員として参加しており行政・地域の情報等、利用者や施設に有益な情報や地域の現状について情報交換できている。	地域は顔馴染みの繋がりがあり支え合う風習のある土地柄である。委員は施設の実情をよく理解し、各種の情報提供や行事などでの協力をし支援してくれる。3・11震災後の新たな地域づくりについても話し合っている。	参加者は会議参加に負担も感じておらず協力的な他、他地域からのメンバーも参加して自分たちの地域を客観視することにも繋がっている。今後もメンバーの話しやすさや視野を広げるコミュニケーションを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターの職員に毎回運営推進会議に参加してもらい施設の現状を見てもらっている。	運営推進委員である地域包括支援センターとは緊密な関係があり、課題など相談し法令や運営について助言を得ている。町の地域地域ケア会議にも参加し、積極的なコミュニケーションを通じて関係機関との絆も作られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議で身体拘束についての研修会を行い意義の共有を図っている。必要やむを得ない場合は家族の了承を得た上で行う場合もあるが、行動制限などの身体拘束は行わない事とし日々のケアを行っている。	資料を活用し研修会・会議で「ベット棚は拘束か」など具体的に取り上げながら、利用者の「自由度か安全確保か」を検討し合っている。転倒予防のための一時的な対応については、家族に説明し同意を得るようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	毎年施設内職員研修において学ぶ機会を設けている。町の高齢者虐待対応マニュアルも活用し、職員がいつでも確認できる場所に常時おいて意識付けしている。		

［評価機関　：　特定非営利活動法人　いわての保健福祉支援研究会］

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内職員研修のテーマに取り上げて全員が学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	あらかじめ施設内の見学を勧め設備や雰囲気を確認してもらい、契約時は生活上予想される事を含めて説明することで少しでも安心して利用できるよう、利用者、家族の不安軽減に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約締結の際、苦情、相談窓口の紹介をしている。運営推進会議へも参加して頂く事で家族が施設の実情を把握したり、意見を言える場を設けている。出された意見は検討し即応できる事項はすぐに対応している。	家族会はあるがやや不活発な状況である。面会や支払いで家族が来所する機会に意見を伺うことに努めている。家族や利用者の声を受け、安心し落ち着いて過ごせる様に、ソファーの位置を変えるなどの改善を図った。	家族にも個々の事情があり、一律的にコミュニケーションを促進していくことは難しいかもしれないが、批判的なものも含めて家族意見が運営の助けになるということを継続的に伝えていくことを期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議へは代表も参加し、話し合いの機会を設けている。また、随時情報を得て必要に応じて改善や廃止等対応している。	職員同士は通常時において話しやすい関係性にあり、管理者や代表は適時職員と面談を持ちながら意見・要望の把握を努めている。職員体制は安定的だが、時に連携の難しさが生じることもあり、意識共有を見つめなおす機会となっている。	新人職員に加入に伴い、一時的に職員間の意識共有に困難が生じたこともあった。人と人が一緒にいるなかでは経験や価値観の違いも生じるということと、協力関係を培っていくことの難しさや意味について改めて考え、心をつなぐ機会としてみてほしい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員個々の日頃の勤怠状況や勤務中の状態を把握している。職員の向上心を持たせるために資格取得の為の休日希望などは可能な限り対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人員配置の許す範囲で所外研修に参加している。毎月の職員会議では職員全員で研修する時間を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同町内のグループホームとはお互いの運営推進会議に参加し情報交換を行っている。グループホーム協会の定例会や研修会にも参加し情報交換、交換研修等を行っている。		

［評価機関　：　特定非営利活動法人　いわての保健福祉支援研究会］

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前調査を行い生活環境を確認し本人と会話する中で、本人の発する言葉から思いを受け止めるよう努めている。その情報を全職員で共有し、配慮する点を確認してケアに臨むようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族状況を伺い、現状や今後の不安などを聞き出しながら思いを受け止めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に本人、家族から生活歴や嗜好・習慣・思い等を聞き、必要と思われることを提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物干し・たたみや掃除、シーツ交換等できる範囲の事を日課として職員と一緒に行っている。生活歴や性格、残存能力を職員が理解し、一緒に取り組む姿勢に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が面会の際にはできる限り職員から利用者の日頃の様子等を伝え、介護支援経過を送付し日々の様子を知ってもらえるよう努めている。必要物品、相談事等ある場合には常時家族と連絡を取り合える関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の自宅やなじみの場所等行きたい所への外出支援や地域の行事への参加を心がけている。	近隣呉服屋とは行ったり来たりの関係があるほか、ドライブで生家の近辺をまわることもある。また子供会との交流バーベキューも定例化している他、神社の祭りでのみこしや虎舞も常に事業所前に立ち寄ってくれ、利用者に加えて近隣住民も楽しみにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者各々の定位置が出来てしまっている事が難点であるが、一人一人の日常の言動を観察しながら他者との関わりが円滑にできるよう常に見守り、会話の仲介や手作業しながらの交流の橋渡しに努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院退所後も利用者の経過について家族がいつでも相談できるよう体制を整えている。情報提供や他施設へのつなぎ支援も必要に応じて行っている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話や行動の中から本人の希望や思いを汲み取り可能な限り実現に向けた支援に努めている。	高齢化が進み言葉によるコミュニケーションは少なくなっており動作や表情から思いを読み取るよう努めている。生活歴を紐解き参考にしている。利用者相互の良好な関係作りに配慮し、ソファーの座る位置の変更などを行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との会話や家族からの情報を通して生活歴や人間関係の把握に努めている。サービス利用歴のある場合には担当の介護支援専門員やサービス事業所から情報提供してもらうこともある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日個別に介護記録を残し一人一人の過ごし方を把握している。生活の様子（動作、言動等）からその人の有する能力を把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成者中心に朝の申し送り時に課題とケアについて確認し合い、ホワイトボードに記入してスタッフ間で情報共有している。本人、家族からは日頃から要望を伺い説明と確認の上で介護計画の作成と変更をしている。	計画の見直しは「日々の様子や変化を大切に」の観点から、朝のミーティング（申し送り）にホワイトボードを用い情報の確認と共有を図っている。アセスメントでは“生きがいを探る”を大切に全職員で行い、ケアマネが計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌、個別のケース記録、申し送り事項の全てを職員が読むことで情報共有している。変更があれば随時職員間で相談し、より良い方法を考え実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	遠方や体調不安などから家族が対応できない利用者の通院支援、役所等への届け出手続きの代行等は随時家族に確認を取りながら対応している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を通して地域の行事や関係機関からの情報収集に努めている。傾聴・朗読ボランティアの定期訪問、近隣保育園との交流が盛んになり、園児と共に行事を楽しむ機会が増えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望するかかりつけ医を受診している。	受診同行は家族を基本としているが実態は職員が同行するケースが多い。家族の場合、事業所での健康面の記録を渡している。地元の県立病院が中心であり医師は協力的で、訪問診察として来所もしてくれている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員の配置はしていないが、協力医療機関と協定を結び、緊急時などは迅速に対応できるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	本人、家族の意向に添い治療経過の把握及び不安解消に努め主治医や担当看護師と常に連絡が取れるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の説明において施設の対応範囲を伝え了解を得るようにしている。本人、家族の意向を第一に考え訪問診療等を活用しながら可能な限りは対応しているが、看取りまでは至っていない。	終末期について入居時に看取りまでは難しいことを説明し同意を得ているが、結果として事業所で亡くなるケースもこれまでにはあった。訪問看護事業所との連携という点で課題もあるが、訪問診療を活用できることもあり、利用者や家族の意向を把握しながら看取りも含めた終末期対応を考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応、事故発生時のマニュアルを作成し職員会議で確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日勤帯、夜勤帯、火災や震災想定等状況別の自主避難訓練を定期的に行っている。年2回の消防署立会いの訓練をする際には近隣への周知、協力依頼している。災害時に備え山田町と福祉避難所としての協定を結んでいる。	年2回、昼と夜を想定した避難訓練を行い、近くの保育園とは炊き出しを含めた訓練を合同でしている。近くに住んでいる職員が数名おり住民の協力を得られている。灯油タンクなどの点検は毎日実施している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者を区別することなく個々にあった対応をしている。些細な一言でも言葉選びには細心の注意を払っている。	利用者への言葉づかいは利用者一人ひとりの“尊厳”について十分配慮しており、気になる際には職員同士で指摘し合っている。広報紙について入居時に説明し、写真や名前の掲載についての同意を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話から得意な事、食べたい物、やりたい事等を聞き、可能な限り実現できるよう支援している。意思疎通が難しい方でも仕草や表情から判断し、声掛けを絶やさないよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	勤務体制からすべて希望通り支援できない時間帯もあるが、原則利用者一人一人のペースに合わせて対応している。買い物支援も希望があれば随時対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日着る服選びや整髪等の手伝いをしている。洗顔や衣類汚れの交換は随時声掛けで対応し、月に1回美容師に散髪依頼し、来所して頂いている。行きつけの美容室まで出かける利用者もある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の嗜好、食べやすい食形態を把握して提供している。季節感を大事にし行事食や旬の食材を使った献立、ホームの畑野菜も取り入れ毎食手作りにこだわっている。午後のおやつも郷土の懐かしい物や手作りのおやつを取り入れている。	季節の献立（七草がゆなど）と旬の食材を使った調理を心掛けている。高齢化が進み調理への参加は限られるが、菜園で多くの野菜を栽培し収穫物を食卓に載せ話題にしながら食事を楽しんでいる。幼少期から食べなれた団子等を産直で購入したり、定期的に訪れるボランティアによるちゃんこ鍋も楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	義歯の有無、嚥下状態に合わせ刻みやミキサー食やソフト食、とろみ剤等を使用しバランスを考えた食事を心がけている。毎日の水分摂取量をチェックし、1日の摂取量に目安を設けて対応している方もある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	洗面所へ誘導し歯磨き、うがいを行っている。自力で行えない方には介助し口腔ケアスポンジ等も使用。夕食後は義歯を預かり毎日洗浄剤につけて義歯の衛生を保つようにしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者それぞれの排泄パターンや間隔を把握し、介助が必要な方でも排泄中はプライバシーにも配慮している。下衣の上げ下げができる方には声掛けしてできる限り自力で行ってもらうよう支援している。	排泄パターンに応じ、見守り・声掛け・誘導でのケアを行っている。日中のオムツ使用は1人、他はトイレでの排泄で、ほぼ動作が自立している方も4名いる。支援により自立度が高まり尿取りパットが外れた方がいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日朝食に牛乳やヤクルト、ヨーグルト等を付けている他、野菜を多めに使った食事、水分補給にも気を付けている。本人の体質に合った食物での整腸を心がけ、排便記録を見ながら随時下剤も使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ほとんどの利用者が介助を必要とする為入浴日は概ね決めているが、個人の体調や好みに応じ入浴順や温度も臨機応変に対応している。午前中の入浴を基本としているが、通院や行事などが重なる場合は午後に実施することもある。	週2回午前中に入浴しており、強く拒否する方はいない。季節に応じ菖蒲湯や柚湯を楽しみ、上がり湯として「湯の素」を使っている。体調や行事などに対し柔軟に対応している。入浴中はくつろぎ職員と会話を楽しむ方が多い。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室やホールで思い思いに過ごされており、日中昼寝に誘導する方もある。夜間定時巡視を行う他、コールボタンを押せる方もあり随時夜間の要望にも応じている。それぞれの時間で就寝、起床している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	診察内容、処方に変更がある場合は通院記録を作成し全職員へ周知している。服薬管理は職員が行い服薬のセット時、服薬時の2回確認を行い、服用時は利用者の名前、日付等を声に出して確認してから飲んで頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人一人の能力に合わせた軽作業やお手伝いをしてもらっている。日課としてホールのカーテン開閉や仏壇の水替え等をしてもらう利用者もある。買い物支援は随時希望に応じている。毎月定期的に傾聴、朗読ボランティアの訪問、保育園との交流を楽しみにしてくれる利用者もいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	敬老行事や季節ごとのドライブを企画し外出する他、希望があれば随時のドライブ、買い物にも応じている。本人の自宅やなじみの場所、外食にでかけることもある。	近くの店、駅、郵便局などに約半数の方が散歩している。冬季間や天候不順な時は音楽(民謡)をかけホーム内を歩く様努めている。月に2回くらいは浄土ヶ浜や桜の名所など、希望や馴染みの所へドライブで出かけ、全員で外食を楽しむこともある。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の能力に応じ、管理の仕方を本人や家族と相談して決めている。自己管理できる方、職員が立ち会いの下ATMから引き出す方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話があれば随時本人へ取り次ぐ他、連絡を取りたい場合も応じている。携帯電話の所持制限もしていない。手紙を出して欲しい場合も代わりに投函することもある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日掃除、消毒を行い清潔保持に努めている。天候により照明や冷暖房の使用を工夫している。毎週届く花を花器に生け季節感を味わえるようにしている。加湿器を使用し乾燥時期には一定の湿度を保つよう努めている。	台所とホール兼食堂が一体で生活感に満ちている。照明をLEDに変え、床暖房・湿度管理が快適になされている。壁にはクリスマスや正月など季節に合った飾りが貼られ潤いがある。感染症対策として手が触れる場所の消毒を徹底している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ、和室、ホール、居室と本人が過ごしたい所で過ごしていただいている。利用者間で交流しやすいよう随時工夫はしているが利用者によってはここと決めた場所が固定化する傾向にある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来る限り自宅で使っていた仏壇を置いたり、家族が持ってきた写真や人形を飾り自分の部屋であることの意識付けと安心感を持てるよう配慮している。	部屋にはベッドとクローゼットが設置され、ポータブルトイレを設置している人もいる。居室表示は利用者に応じ文字の大きさや絵を用いるなど工夫している。家族写真、手作り作品、人形が飾られ潤いや安心感がある居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活感を持たせることで自発的に動けるよう、洗濯物を室内に干したり調理している姿が見えるよう配慮している。職員は作業しながらも一人一人の動きを確認し安全に配慮している。暦も目につきやすい場所に設置し毎日利用者にめくってもらっている。		